



最近の国立公園等の取組について

- ・ 国立公園満喫プロジェクトについて
- ・ 国立・国定公園の新規指定・大規模拡張に向けた検討
(国立・国定公園総点検事業フォローアップ)

「明日の日本を支える観光ビジョン（2016年3月）」の柱の一つに国立公園が位置づけられる
 2016年～ 国立公園満喫プロジェクト開始 【訪日外国人の国立公園利用者数】 490万人（2015年） →667万人（2019年）

国立公園の保護と利用の好循環により、優れた自然を守り地域活性化を図る

- ◆ 日本の国立公園のブランド力を高め、国内外の誘客を促進。利用者数だけでなく、滞在時間を延ばし、自然を満喫できる上質なツーリズムを実現。
- ◆ 地域の様々な主体が協働し、地域の経済社会を活性化させ、自然環境の保全へ再投資される好循環を生み出す。

国立公園を核とした
 地域循環共生圏の実現



国立公園の優れた
 自然環境

最大の魅力は
 自然そのもの

保護

利用

地域の産業の活性化
 地域の持続的な発展

地域資源として
 自然の価値向上

受入環境の磨き上げ

- ・ 景観改善／廃屋撤去★
- ・ ビジターセンター等の再整備
- ・ 公共施設へのカフェ等導入
- ・ 多様な宿泊サービス
- ・ 多言語解説★／Wi-Fi設置
- ・ 案内機能強化★
- ・ 自然体験コンテンツの充実★
 （野生動物、グランピング、ナイトタイム等）
- ・ 利用者負担による保全のしくみづくり

国内外へのプロモーション

★:国際観光旅客税関連

- ・ 日本政府観光局サイト内国立公園一括情報サイト★
- ・ SNS／海外メディア★、旅行博
- ・ 和イチャ! -トナ-等民間企業との連携

新型コロナウイルスによる観光地への影響
 新たなライフスタイル転換

2021年以降プロジェクトを継続し、国内外の利用者復活を目指す
 （国内誘客の強化、ワーケーション等の新たな利用推進、34公園への展開、脱炭素化など）



(概要) 国立公園満喫プロジェクトの2021年以降の取組方針

- 2016年～2020年までのプロジェクト実施により、特に8国立公園で、プロモーション、施設改修、Wi-Fi整備、多言語化等進展したが、「世界水準」のブランド力・認知度や、民間と連携した利用の質の向上は不十分。
- コロナウイルスの影響により国内外の利用者数が大幅に減少し、公園事業者の事業継続と雇用維持が課題。アウトドアレジャーやテレワークの関心高まりによる新たなライフ＆ワークスタイルの転換が見込まれる。
- 訪日外国人の今後の回復は不透明だが、現時点で2030年の政府全体目標は維持（訪日外国人6000万人）



国立公園満喫プロジェクトを以下の観点から**2021年以降も継続的に実施し、新たな展開を図る。**

基本的な方針

1 ウィズコロナ・ポストコロナの時代への対応
～ワーケーション等～

- 国内誘客の強化、地域内観光の受け皿として再構築
- ワーケーションなど国立公園の新しい利用価値を提供
- コロナ禍での安心・安全で快適に利用できる受入環境整備
- 国立公園のブランディング、多様な利用者層をターゲットにしたコンテンツ充実・情報発信
- 限定体験やキャパシティコントロールの推進による保護と利用の好循環

2 水平・垂直展開
～8公園から全公園へ～

- 全34公園の底上げ・水平展開（法改正も含む制度化検討、総合展開型・個別事業型）
- さらなる高みを目指した集中的な取組による「世界水準のデスティネーション」の実現（保護と利用の好循環、上質なサービス、体験コンテンツ、周辺地域との広域周遊、サステナブルツーリズム等）
- 先行8公園等は取組継続・成果を生かした誘客
- 国立公園・ロングトレイルの資源の活用・連携

3 これまでの基本的な視点の継続・重視

最大の魅力は自然そのもの／人の暮らし・文化・歴史を有する自然との共生の姿／「体積」で考える／幅広い利用者層に対応／広域的な視点／サステナビリティ

目標・指標

当面の目標
（～2025）

- ・自然を満喫できる上質なツーリズムの実現とブランド化。そのための「質」の目標・指標の設定（延べ宿泊者数、認知度等）
- ・新型コロナウイルスによる影響前の国内利用者の復活
- ・訪日外国人利用者数1000万人目標を見据えた、同ウイルスによる影響前の訪日外国人利用者の復活
- ・取組を行う公園・地域ごとに個別の目標・指標を設定 ※政府全体目標次第で必要な見直しを検討

長期目標（～2030）政府全体目標を踏まえつつ、上記の「当面の目標」の達成状況をフォローアップする中で検討

利用拠点の整備

2022年4月に妙高高原ビジターセンター設置。ツアーデスク、ミュージアムショップ、開放感のあるカフェラウンジを整備。



【妙高戸隠連山】

公共施設の民間開放

英虞湾を一望する展望台と、民間の横山天空カフェテラスをリニューアルオープン。カフェの収益の一部を公園管理に活用。利用者数65%増、滞在時間増。



地場産品メニューも充実

【伊勢志摩】

廃屋撤去等による引き算の景観改善と跡地活用

大山町が廃屋を撤去し、新たにカフェや土産物の販売をする「大山参道市場」を整備



撤去前の廃屋



【大山隠岐】

自然体験コンテンツの磨き上げ

光と音響等で演出された夜の森で自然とアイヌ文化を体感する「カムイルミナ」



【阿寒摩周】

ワーケーション等の新たな利用の推進

キャンプ場でのワーケーションキャンプの展開と、キャンプ参加者向けのアクティビティの開発（休暇村協会、スペーススキー）



【磐梯朝日】

プロモーションの強化

JNTOサイト内に国立公園サイトを新設し、SNSやメディア媒体等からの誘導



国立公園満喫プロジェクトの新たな展開 宿舎事業を中心とした国立公園利用拠点の面的魅力向上

- 2018年から、「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づき、国立公園満喫プロジェクトを推進。
- インバウンド再開を見据え、国立公園における滞在・高付加価値化観光に向けて、2023年1月に新たに検討会を設置し、「保護と利用の好循環」「高付加価値化」「官民連携」をキーワードに、民間提案による国立公園利用拠点の面的な魅力向上に取り組む。

検討会における実施方針・スキーム等の検討
(2023年1月～)



サウンディング調査等を通じて事業実施地を
1～2カ所決定 (2023年度後半～)



民間の発想を生かした国立公園の拠点の磨き上げ、官民による集中的な取り組み実施

国立・国定公園の新規指定・大規模拡張に向けた検討

- ・2030年までに陸域と海域の30%を保護地域等で保全することを目指す国際目標（30by30）の達成に向けて、「国立・国定公園総点検事業（平成22年公表）」のフォローアップを行い、国立・国定公園の新規指定・大規模拡張候補地を14か所抽出した（令和4年6月公表）。
- ・これらの候補地については、最新の自然環境データ等に基づき資質の観点から抽出したものであり、令和4年度以降、自然環境や社会条件等の詳細調査及び関係機関との具体的な調整を開始し、2030年までに順次指定・拡張することを目指す。

国立・国定公園の新規指定・大規模拡張候補地の選定結果

● 今回のFUによる国立・国定公園の新規指定候補地 4地域

（前回総点検事業からの継続を含む）

- ・野付半島・風蓮湖・根室半島※ 【国定公園の新規指定】
 - ・日高山脈・夕張山地※ 【国立公園の新規指定等】
 - ・御嶽山 【国定公園の新規指定】
 - ・宮古島沿岸海域（八重干瀬を含む） 【国定公園の新規指定】
- ※前回総点検事業からの継続

● 今回のFUによる新たな大規模拡張候補地 4地域

- ・八幡平周辺（森吉山・真昼山地・田沢湖等）
【国立公園区域の拡張又は国定公園の新規指定】
- ・奥只見・奥利根 【国立・国定公園区域の拡張等】
- ・能登半島 【国定公園区域の拡張】
- ・阿蘇周辺の草原 【国立公園区域の拡張】

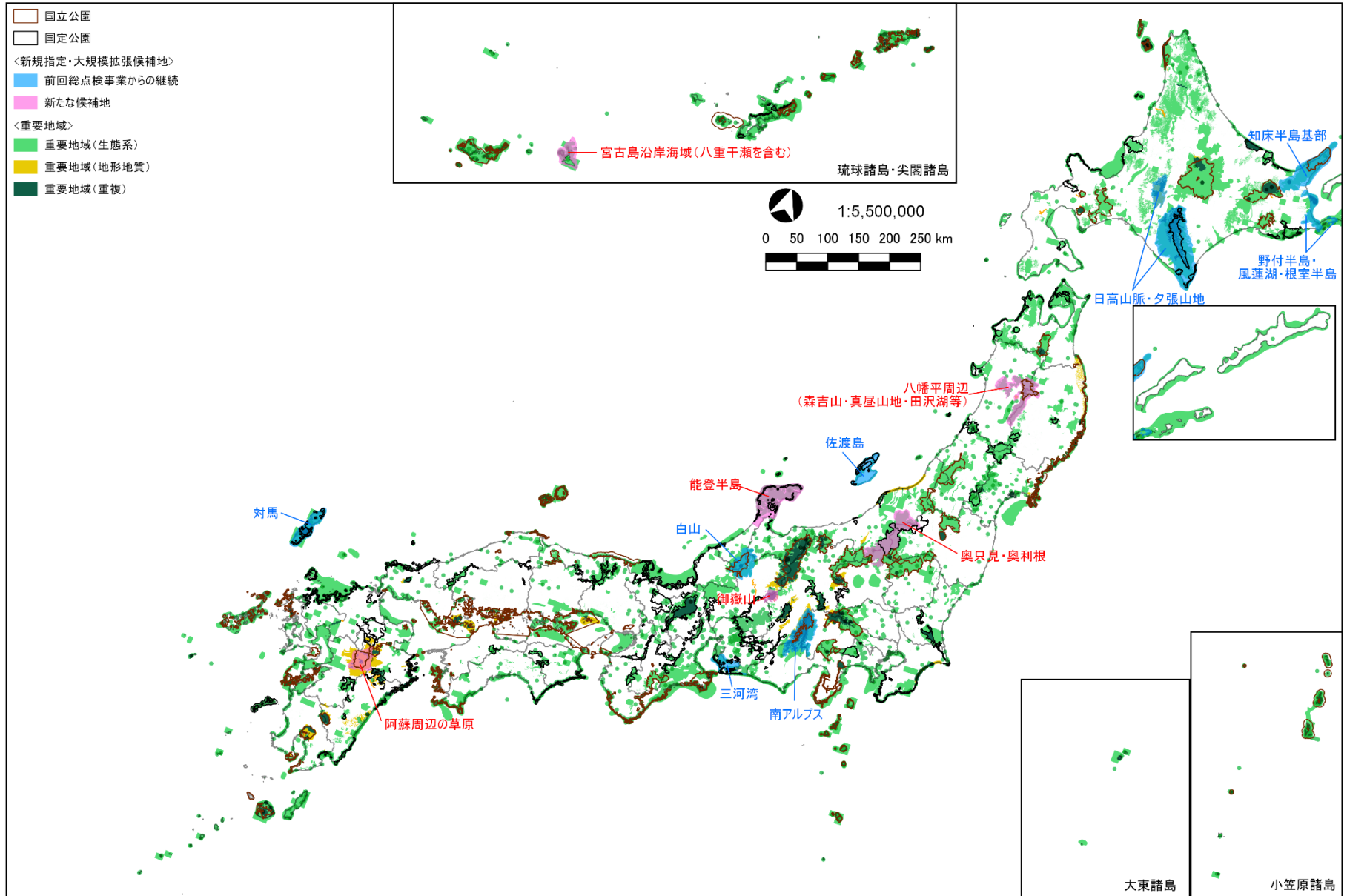
● 前回総点検事業の候補地のうち継続とする大規模拡張地域 6地域

- ・知床半島基部（斜里岳を含む）
- ・三河湾
- ・佐渡島
- ・白山
- ・南アルプス
- ・対馬



左上 宮古島沿岸海域
上 野付半島・風蓮湖・根室半島
左 御嶽山

国立・国定公園新規指定・大規模拡張候補地の選定結果



※候補地は最新の自然環境データ等に基づき資質の観点から抽出したものであり、本図で図示された区域は自然植生・藻場・サンゴ礁等からなる生態系・地質の重要地域の区域を主に参考にして記入したものである。詳細な区域の範囲は決まっておらず、将来的な公園指定や公園区域の拡張に向けた関係機関との調整や詳細な調査検討が今後必要である。